

①フットサル交流会「ダイバーシティリーグ」参加の野武士ジャパン（大阪）②新型コロナ感染対策で配布した寄付マスクを着用したビッグイシュー誌販売者 ③左：『路上脱出ガイド』（2021年冬／福岡市内版） 中央：『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編 右：『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編 ④定例サロン（東京） ⑤「新人Hソケリッサ!」路上ダンスツアー ⑥住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金の申請サポート

# 目次

03	はじめに — 共同代表からのごあいさつ
04	第15期活動概要
06	つながって生きる — ホームレスの人、困窮者の自活・自立応援プログラム
06	1. コロナ禍での活動 — 緊急支援ネットワークによる活動
07	2. 何があっても大丈夫 — 当事者への情報や交流機会などの提供
08	3. 暮らしを取りもどす — 健康・住宅・法律・金銭管理など相談機会の提供
08	4. 仕事がしたい — 仕事・就業応援プログラム
09	5. 生きていてよかった — スポーツ・文化活動プログラム
10	生きやすい社会をととのえる — 貧困問題解決への実践的ネットワークと政策提案
10	1. 暮らしの基盤をつくる — 住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
11	2. 依存症からの脱却 — ギャンブル障害の調査・提案事業
11	3. 新しい仕事をつくる — 「夜のパン屋さん」との連携
12	市民が社会をつくる — ボランティア活動と市民参加
12	1. 参加のチャンスをつくる — ボランティア参加プログラム
12	2. 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 — 寄付参加プログラム
13	3. 広報・メディア掲載
14	ありがとうございました — 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
15	社会を変えるのはあなたの寄付です — 会員・寄付の制度について
16	決算報告
18	誰もが生きやすい“包摂”社会をつくる — ビッグイシュー基金とは
19	これまでの発行物一覧

おかげさまでビッグイシュー基金は設立 15 周年を迎えることができました。日頃からの皆様のご支援、ご協力に感謝いたします。

今年に入り、東京や大阪など各地で開催されている生活困窮者向けの食料配布や相談会に集まる人の数が過去最多を更新し続けています。2020 年春に始まり、未だ終息の見通しが立たないコロナ禍。そこに追い討ちをかけるように今年春から急速に進行している物価高騰。そして、気候変動の影響で毎年のように襲っ

てくる猛暑や水害。いま、私たちが日々接しているホームレスの人たちや、住まいがあっても家計のやりくりで苦勞されている人たちは、「三重苦」とも言える困難に直面しています。

ビッグイシュー基金では、ともに困難を乗り越えるべく、従来の活動を通して培ってきた他の団体や個人とのネットワークを生かしながら、できることを一つ一つ進めてきました。その記録である年次報告書をぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。



認定NPO法人  
ビッグイシュー基金  
共同代表 稲葉 剛

いつも活動を応援してくださってありがとうございます。私たちは、本当にたくさんの方の温かい気持ちに支えられているのだと深く感謝しております。

私がビッグイシューに関わって 15 年以上が経ちました。共同代表に就いて 3 年、「夜のパン屋さん」も 2 年続いています。

よくわかったと思うことがあります。みんなが集まってできること、できないことを補い合うからこそ、その場に居ていいのだと。だからこそ続いたのだと。それは、たくさん

利益を得ることや、優秀かどうかを競うような価値観から降りて、違いを認め合うことができたからこそだと思っています。

作物を支える土の中の根のようものが、支え合う人と人の繋がりなのだ、改めてありがたく思っています。今後も新しいプロジェクトをどしどしつくっていけたら、と画策中です。いろいろな人と繋がって根を張りめぐらせて、生きやすい場所をともにつくり、ともに生きていきたいと思っています。どうぞよろしく仲良くしてくださいませ。



認定NPO法人  
ビッグイシュー基金  
共同代表 枝元 なほみ

ホームレス状態は、社会のもっとも弱い部分であり、それゆえにそこには社会の変動が敏感に反映します。さらにその上にコロナ禍が重なり、困窮の形が大きく変質しています。こういう時こそ、われわれは感度よく、問題の形を切り出してくる必要があります。

いま、われわれは、「夜のパン屋さん」が、新しい形の仕事づくりをみごと実現させつつあるのを、目の当たりにしています。うまくいくことも、うまくいかない場合もあるで

しょう。しかし、試みから、さまざまなノウハウと人間的な繋がりが生まれ出るはずで。そして、この試みに参加した若い人が、その作業自体を研究の対象とし、できれば論文の形にまとめて、社会的に発信する。難しそうに見えることこそ、やってみる価値があります。ビッグイシューの出発点には、仕事づくりのための戦略的な発想があったのですから、小なりとは言え、走りながら考えるシンクタンクの機能は保持していきたいと思っています。



認定NPO法人  
ビッグイシュー基金  
共同代表 米本 昌平

# 第 15 期 活動概要

ビッグイシュー基金は、ホームレス状態にある人々、生活に困っている人々の自立・自活を応援するために、第6期より3つの事業を柱に、各種のプログラムを展開してきました。設立から15年目の今期は、新型コロナパンデミックの長期化、台風・酷暑など気候危機の影響、ロシアによるウクライナ侵攻、物価高騰など、社会全体の不安定化が深まりました。こうした社会不安の影響を受けやすいのは、例えば全国3448人の路上生活者（22年厚労省調査）、都内4000人のネットカフェ等利用者（2018年東京都調査）など、住まいや収入などの生活基盤が不安定な人々です。基金では2020年以降、彼・彼女らが安心して身体を休められる居所を確保するため、支援団体や個人によるネットワークをつくり、食品配布＆相談会の開催や、緊急宿泊費の提供、207世帯に賃貸住宅の初期費用などを支払う「おうちプロジェクト」など、給付型の緊急支援事業を展開しました。

活動現場が拡がる中で、年間の相談件数も大阪・東京でのべ1337件と高止まりし、女性や、複数人世帯、40歳以下の若年層からの相談割合が増えました。こうした日常活動の変化を、『路上脱出・生活SOSガイド』の改訂内容や、借り上げシェルターの増室、市営住宅の空き室を活用したステップハウス4室の新設など、基金独自のプログラムに反映しながら、新たな現場をつくる1年になりました。

基金の各種プログラムを、より実践的なものにして社会に開くことを目指した第15期の活動を、多くの市民ボランティアや、約7000人の寄付参加者に支えられて、無事に終えることができました。ビッグイシュー基金第15期の活動概要は以下の通りです。

## 1. ホームレスの人・困窮者の自活・自立応援

### ——情報提供、相談、就業、クラブ活動など

当事者への情報提供では、11月に『路上脱出・生活SOSガイド』（東京23区編）の改訂第4版を発行し、3000部を印刷。5月には5000部

増刷しました。また8月には大阪編のガイドに、新たに18の相談窓口を掲載した改訂第3版をつくり、1万部を発行。HPより閲覧可能なWEB版もリニューアルしました。定例の夜回りなどでの配布に加え、協働団体、図書館、市民からも送付依頼があり、今期は大阪で3471部、東京で4638部を無料で配布しました。

生活自立応援では、健康、住宅、法律など、大阪・東京でのべ1337件の相談がありました。支援団体、専門家、行政機関と連携し、問題解決に向けたサポートをしました。相談者の年齢は19歳～83歳と幅広く、女性からの相談（122件）もあり、海外渡航先で困窮している、という相談も複数ありました。

ホームレス状態の人や路上経験者が集い、仕事や暮らしについて話し合う「定例サロン」は、ビデオ通話サービスも活用して開催しました。また、12月には「第12回大阪ホームレスクリスマスパーティ」を初めてオンラインで開き、札幌から鹿児島まで、全国の当事者や支援者、市民90人以上が交流しました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者を、（有）ビッグイシュー日本と協働して応援しました。新型コロナの感染拡大期には感染予防のため、販売者を対象にホテルなどでの宿泊機会を提供し、大阪・東京でのべ58人、1411泊の利用がありました。

スポーツ・文化活動では、NPO法人ダイバーシティサッカー協会と協働した「ホームレスサッカー」、ダンスチーム「ソケリッサ」、「講談部」、「歩こう会」、「家庭菜園部」「英語クラブ」などの活動を、広報や活動場所の確保などで応援しました。

（コロナ禍での活動——ワクチン接種・療養サポート、行政への申し入れ、大人食堂など）

夜回りで出会う人や、事務所に相談に来られる人、のべ2171人に寄付品のマスクや食料品などを手渡しました。またワクチン接種希望者には、接種券の取り寄せや、協力医療機関での

接種調整など、のべ44件のサポートをしました。そして家がない人、無保険の人など、8人の新型コロナ陽性者の入院や病院受診、保健所との調整、借り上げシェルターでの一時療養などもサポートしました。

20年から必要に応じて行政への申し入れを行い、21年9月と12月に困窮者支援団体・個人と連名で、東京都に年末年始期間中の一時宿泊所を十分に用意することなどを求めました。

また大阪・東京で支援団体協働での相談会も継続開催しました。東京では年末年始に、2日間の「大人食堂」を開き、のべ685人が来場。大阪では22団体での協働事業「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」で食料配布&相談会を4回開催し、計850人に食料品や紙おむつ、生理用品などを手渡しました。

そして賃貸住宅の入居費用などを支払った「おうちプロジェクト」では、利用者や協働団体と継続して連絡を取り、必要な時は相談窓口へつなぐなどのフォローをしました。

## 2. 貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案 ——ギャンブル障害問題、住宅問題、「夜のパン屋さん」との連携

ギャンブル障害の問題では、19年に京都大学大学院医学研究科との共同研究で実施した、大阪市のシェルター利用者にギャンブルとのかかわりを聞く調査の報告書『ホームレス状態とギャンブル障害—121人のヒアリングから』などを継続して無料配布しました。22年6月にはこの調査内容が国際誌『Journal of Gambling Studies』に掲載されました。

住宅事業では、大阪・東京で借り上げ住宅「ステップハウス」5室、シェルター2室を継続運用しました。また、尼崎市・コープこうべ・阪神間の民間支援団体が協働して尼崎市営住宅の空き室を活用する「あまがさき住環境支援事業」に参加し、低廉な利用料で住むことのできる一時的な居所「あまやどりハウス」4室をつくり

ました。

また「新しい仕事づくり」の検討のため、(有)ビッグイシュー日本の事業「夜のパン屋さん」に調査員を派遣し、実際に働きながら業務内容を共有してもらった仕組みをつくりました。

## 3. ボランティア活動と市民の参加——ボランティア、寄付、そして広報活動

ボランティア希望者には月例で「オンライン説明会」を開き、今期は107人の参加がありました。累計の登録者数は東京818人、大阪545人、合計1363人でした。

市民応援会員は504人、企業会員は3件。寄付金控除のある5つの寄付メニューへの参加者は1798人、任意寄付参加者は4220人、その他寄付者(チャリボン等)432人、遺贈寄付3人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者はのべ6960人、会費&寄付額は8369万円となりました。

また今期は、認定NPOの有効期間更新のため、大阪府に申請し、調査を受け、3月に更新が完了しました。

広報では、基金だよりや基金通信「希望前線」を各24回発行。このほかYouTube「ビッグイシューチャンネル」の企画・運営協力、「Google広告」なども活用しました。またマスメディアでも、SOSガイド、ネットワークによる相談会などの活動が取り上げられました。

第15期は、新型コロナパンデミックの長期化、台風・酷暑など気候危機の影響、ロシアによるウクライナ侵攻、物価高騰など、社会全体の不安定化が深まりました。生活自立応援プログラムでは、利用可能な公・民の社会資源についてまとめた『路上脱出・生活SOSガイド』による情報提供や、健康・住宅・仕事・法律などの困りごとへの相談対応、また当事者・ボランティアによるスポーツ・文化の各種活動を応援しました。また2020年以降に立ち上げた支援団体や個人によるネットワークに継続参加し、合同相談会の開催や、ホテル等での宿泊機会の提供など、当事者とともに不安定な社会を生きのびるための緊急支援の活動に取り組みました。

## 1. コロナ禍での活動——緊急支援ネットワークによる活動

### ■ ワクチン接種・療養サポート、行政への申し入れ、大人食堂など

夜回りなどの巡回活動で出会う人や事務所に相談に来られる人、のべ2171人に寄付品のマスクなどの衛生用品や食品などを手渡しました。新型コロナワクチン接種希望者には、接種券の取り寄せや、協力医療機関での接種調整など、のべ44件のサポートをしました。そして住まいがない人や無保険の人など、8人の新型コロナ陽性者の入院や病院受診を調整しました。感染拡大期には、住まいがない人でもすぐに療養施設に入所できず、基金の借り上げシェルターで一時療養してもらうケースもありました。

現場での活動と並行して、21年9月に都内の支援団体・個人と連名で、住まいのない人が発熱した場合の円滑な対応を求める要望書を東京都に提出しました。また12月には年末年始期間中の一時宿泊所を十分に用意すること、その利用を促す積極的な広報を求めました。



「プロジェクト OSAKA」での食料配布&相談会



年越し大人食堂 2022

また、コロナ禍以降で立ち上げた、支援団体・個人による協働ネットワークでの相談会なども継続開催しました。大阪では20年4月に発足し、市内22団体が参加する「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA」（幹事団体：NPO法人釜ヶ崎支援機構）で食料配布&相談会を4回開催し、計850人に食品や日用品などを手渡しました。東京では21年12月30日と22年1月3日に聖イグナチオ教会で「年越し大人食堂 2022」を開催しました。都内の支援団体で共催し、2日間で計685人が来場しました。お弁当や食材などを手渡し、生活・医療・女性専用の各相談ブースには計218人が訪れました。

そして前14期に大阪・東京で18の支援団体と協働し、新型コロナで困窮する207世帯に賃貸住宅の入居費用などを支払った「おうちプロジェクト」では、利用者と連絡を取りながら、必要な時は協働団体や相談窓口へつなぐなど、入居後の個別サポートを継続しました。

## 2. 何があっても大丈夫——当事者への情報や交流機会などの提供

### ■ 路上脱出・生活SOSガイド

09年に初版を発行した『路上脱出ガイド』は、路上で生活する人が今日を生きのびるために利用できる支援情報をまとめた冊子です。16年からは、依存症やDV、法律や労働相談など、ホームレス状態の人以外も参照できる『路上脱出・生活SOSガイド』として再編しました。これまで札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の7地域で発行され、市民の配布協力を得て、累計で東京23区編を9万7247部、大阪編を4万2768部配布しました。



大阪編



『路上脱出ガイド』  
(2021年冬/福岡市内版)

今期は、21年11月に『路上脱出・生活SOSガイド』（東京23区編）の改訂第4版をつくり、3000部を印刷、5月にはさらに5000部を増刷しました。また8月には、表紙も新たに18の相談窓口を追加掲載した大阪編の改訂第3版をつくり、1万部を発行しました。基金HPより閲覧可能なWEB版も同時リニューアルしました。定例の夜回りなどでの配布に加え、協働団体、図書館、市民からも送付依頼があり、1年間で、大阪では3471部、東京では4638部を無料配布しました。

大阪・東京版以外のガイドは、各地で連携する支援ネットワーク「ビッグイシュー・サポーターズ」(14p.参照)が独自に編集・発行し、基金は印刷費などの負担や広報協力をしています。21年12月には、『路上脱出ガイド』(2021年冬/福岡市内版)が発行され、地域の支援団体によって配布されています。

※『ガイド』は、送料のみで必要冊数をお送りします。基金HPからご請求ください。

### ■ 夜回り・昼回りなどの巡回活動

大阪では市内で連携団体が開く炊き出し回りと夜回りを、東京では(一社)つくろい東京ファンドとの合同夜回りを継続して行いました。寄付品のカイロやマスク、軽食などを、『路上脱出・生活SOSガイド』や、ビッグイシュー誌の販売など路上生活でも利用できる資源をまとめたチラシとともに配布しました。大阪でのべ1245人(計26回)、東京でのべ180人(計12回)にお渡ししました。

### ■ 定例サロン・市民とのコラボイベントの開催



第12回大阪ホームレスクリスマスパーティ

ホームレス状態の人や路上経験者が集い、仕事や暮らしについて話し合う「定例サロン」には、大阪のべ172人(計12回)、東京のべ77人(計5回)が参加しました。12月には「第12回大阪ホームレスクリスマスパーティ」を開催し、「オンラインでつなぐ、冬の路上」をテーマに、ビデオ通話サービス「Zoom」を使って、熊本、名古屋など日本各地のビッグイシュー誌の販売者やサポーター団体、市民ら90人以上で交流しました。

### ■ 越年の活動

越年越冬の取り組みでは、年末年始に活動する全国9つの連携団体に合計17万円のカンパを行いました。また、大阪で「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」の相談会、東京で「年越し大人食堂2022」を開きました。(6p.参照)

### 3. 暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談機会の提供

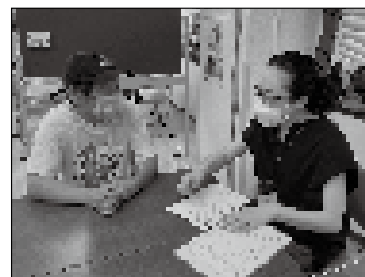
ホームレス当事者や生活に困窮する人からの医療や住まい、法律などの困りごとについて相談を受け、専門家や支援団体、行政機関と連携してその解決をサポートしました。今期は大阪で498件、東京で839件、計1337件の相談がありました。生活保護の申請や医療機関、不動産業者、法律事務所などへの同行支援は204件でした。相談者の年齢は19歳～83歳と幅広く、女性からの相談（122件）もありました。海外渡航先で困窮している人とZoomでつながり、帰国後の生活再建をサポートする事例もありました。

#### ● 相談内容（複数選択有）

生活	住宅	福祉	医療	就業	法律
610件 (45.6%)	463件 (34.6%)	285件 (21.3%)	180件 (13.5%)	170件 (12.7%)	69件 (5.2%)

#### ● その他の相談プログラムの参加者数

- ・大阪府保健医協会、歯科保健研究会、プロボノ鍼灸師の「内科・歯科・鍼灸相談会」：のべ82人
- ・新宿保健医療班の協力による「健康相談会」：のべ15人
- ・借り上げシェアオフィスの利用人数：大阪のべ63人 / 東京のべ36人
- ・住所がなく銀行口座がつかれない人の積立金の預かり：計18人
- ・荒天時や体調不良時など、緊急避難が必要な時の貸付：計4人



健康相談会・東京

#### ● 他団体との協働プロジェクトなどによるサポートの利用者数

- ・「東京アンブレラ基金」による宿泊費の提供：のべ46人
- ・「つながる電話プロジェクト」による電話利用サポート：計9人
- ・「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」による宿泊費の提供：51人

### 4. 仕事がしたい——仕事・就業応援プログラム

#### ■ 雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

路上で生活する人や生活に困窮する人が、すぐに始められる雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売の仕事、(有)ビッグイシュー日本と連携して応援しました。

『路上脱出・生活SOSガイド』や基金HPなどでの周知、販売時の身なりを整えるための衣類やアメニティの提供、熱中症対策グッズの提供、体調不良者・新型コロナ陽性者の対応、販売場所への巡回ヒアリングなどをしました。また、新型コロナの感染拡大期には、感染予防のため販売者を対象にビジネスホテルなどでの宿泊機会を提供し、大阪・東京でのべ58人、1411泊の利用がありました。

#### ■ 就業応援の連携事業

雑誌販売以外の仕事を希望する方には、連携するNPOや行政などの就労支援窓口や施設について情報提供を行い、必要な時には見学や申込みに同行しました。大阪では、仕事に関する悩みなどを傾聴し、問題整理のサポートをしてくれるコーチングのプロボノによるセッションを10回開催し、のべ11人が参加。東京では、プロボノの美容師の協力のもと、身だしなみを整えられるヘアカットの会を4回開催し、のべ9人が参加しました。



## ■ ビッグイシュー卒業生との関わり

住まいや仕事を得て路上を脱出したビッグイシューの卒業生とは、年賀状のやり取りや、定例サロン、クラブ活動への参加を呼びかけて、つながれる機会をつくりました。お茶を飲みながら日々の生活のことなどを話す「アフター・ティー」には、大阪でのべ22人、東京でのべ3人が参加しました。これらのやりとりの中で、介護や障害福祉のサービスにつながった事例もありました。

## 5. 生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム

ホームレス状態の人が生きるよろこびを見つけ、仲間とともに活動できる当事者主体のスポーツ・文化活動を広報や活動場所の確保などで応援しました。新型コロナの影響による活動休止や、ボランティア参加を見合わせる期間もありましたが、感染予防をしながら継続できるよう、参加メンバーと随時話し合っ



講談部・大阪

### ● ホームレスサッカー・野武士ジャパン（大阪・東京）

基金から独立して設立されたNPO法人ダイバーシティサッカー協会と連携して、活動を応援しました。対面やオンラインでの交流試合を大阪では20回実施し、のべ276人が、東京では18回実施し、のべ235人が参加しました。活動予定は基金HPのイベント情報か、Facebook「野武士ジャパン ホームレスサッカー（応援ページ）」(<https://www.facebook.com/nobushijapan/>)から。

### ● 講談部（大阪）

大阪では、講談師の玉田玉秀齋さんが指導する講談部が定期的な稽古を続け、その成果を披露する「ビッグイシュー講談会」を9回開きました。YouTubeの「ビッグイシューチャンネル」では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の内容を講談調で紹介する動画も配信しました。

### ● 街歩きクラブ・歩こう会（大阪）

ビッグイシュー誌販売の仕事で生計を立てる濱田さんが主催する、街歩きクラブ「歩こう会」は6回開催され、のべ31人が参加しました。

### ● ボウリング同好会（大阪）

不定期で2回開催し、のべ25人が参加。基金から活動費の一部を補助しました。

### ● 路上生活経験者のダンスチーム・新人Hソケリッサ！（東京）

21年10月に「路上の身体祭典H！」東京／横浜路上ダンスツアーを開始し、10月と翌4月にドキュメンタリー映画『ダンシングホームレス』（20年3月公開）の上映やパフォーマンスなど計3回の公演を行いました。基金はイベント広報や練習場所の確保などで応援しました。今後の予定は「新人Hソケリッサ！」公式HP (<https://www.sokerissa.net/>)から。

### ● 家庭菜園部（東京）

20年1月の定例会後、新型コロナの影響で活動を休止していましたが、22年7月からトマトやナスのベランダ菜園にチャレンジする活動を再開し、月に1回定例会を開催しました。

### ● 英語クラブ（東京）

20年2月から、新型コロナの影響で活動を休止していましたが、21年5月に再開しました。ボランティア講師の参加を得て5回開催し、のべ16人が参加して歌やゲームで英語に親しみました。

### ● 俳句同好会（東京）

集まらなくてもできる文化活動として5月から開始。5人が参加し、各自で俳句をつくりました。

# 生きやすい社会をととのえる

— 貧困問題解決への実践的ネットワークと政策提案

基金では、現場の活動で見えてきた社会課題の解決方策を考えるために、市民と協働した実験的事業や、専門家と連携しての調査・提案の活動に取り組み、これまで 17 冊の報告書を作成してきました。第 15 期は大阪で市営住宅の空き室を活用した一時的な居所「あまやどりハウス」4 室を設け、東京では「夜のパン屋さん」との連携を深めるなど、新たに活動現場が拡がりました。

## 1. 暮らしの基盤をつくる——住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業

### ■ 民間空き室を活用した実験的事業——シェルター・ステップハウス事業

社会に増え続ける空き家と、住宅困窮者のマッチングを模索する住宅問題の実験的事業では、大阪・東京で篤志的な家主の方からアパートの空き室提供を受け「ステップハウス」5 室、シェルター 2 室を継続運用しました。大阪のステップハウス「悟楽堂」は、月額利用料 1 万 5000 円のうち 1 万円が利用者本人の積み立てになり、1 年の期間で次のステップへの費用を貯められる仕組みで運用しています。居住ルールを決める「利用者会議」の開催や周辺の清掃など、利用者による自治が進められています。2015 年の開設から 7 年間で 48 人が利用し、今期は利用者 6 人中 4 人が次の住まいへ移りました。



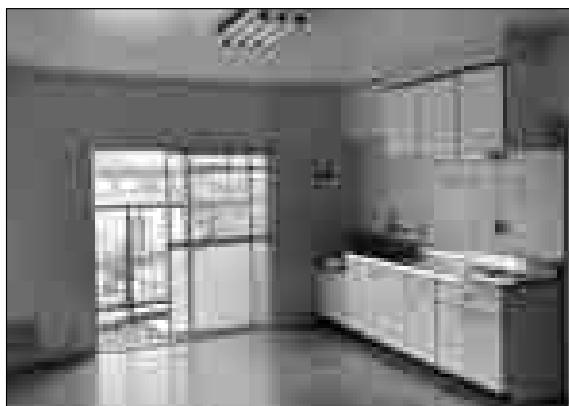
ステップハウスからアパートへ



「悟楽堂」利用者による納涼花火会

### ■ ステップハウス「あまやどりハウス」の新設——市営住宅の空き室を活用

第 15 期に尼崎市・コープこうべ・阪神間の支援団体が協働して尼崎市営住宅の空き室を活用する「あまがさき住環境支援事業」に参加し、ホームレス状態の人が利用できる「あまやどりハウス」4 室をオープンしました。月額 6500 円の利用料と自治会費、水光熱費の負担で 1 年間利用でき、生活再建の基盤にできます。今期はネットワーク会議への参加や、室内の清掃、設備の補修など準備を進めました。22 年 9 月から 4 人が利用を開始し、自治会活動の参加や、居室の D I Y にもチャレンジします。



「あまやどりハウス」の一室



築古ながら、39 平米と広々

## 2. 依存症からの脱却——ギャンブル障害の調査・提案事業

ホームレス化の原因になり、路上脱出を阻む壁にもなるのが「ギャンブル障害」の問題です。19年に京都大学大学院医学研究科との共同研究で実施した、大阪市のシェルター利用者にギャンブルとのかかわりを聞く調査の報告書『ホームレス状態とギャンブル障害—121人のヒアリングから』などを継続して無料配布しました。また22年6月には、この研究の論文が国際誌『Journal of Gambling Studies』に掲載されました。

※投稿論文は下記ページから、お読みいただけます。(英語のみ)

<https://link.springer.com/article/10.1007/s10899-022-10121-x>

## 3. 新しい仕事をつくる——「夜のパン屋さん」との連携

若者ホームレスに関する調査・提案の活動の中で、社会的な不利・困難を抱える若者の存在と、彼・彼女らが、多様に働ける「仕事」の不足が見えてきました。基金ではこの課題に、新しいアイデアで社会問題の解決に挑戦すると同時に、そこを新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の試みに注目して、議論を深めてきました。

今期、基金では新しい仕事づくりの検討のため、(有)ビッグイシュー日本の事業「夜のパン屋さん」の現場に調査員を派遣し、実際に働いてもらいながら、仕事の内容を共有してもらおう、という仕組みをつくって連携を深めました。またパンの余剰が出た場合には、団体合同の相談会などを通じ、食べるものがない、という人にシェアして活用しました。

### ●「夜のパン屋さん」とは？

「夜のパン屋さん」は、ホームレス状態の人に雑誌の販売という「すぐにできる仕事(収入)」を提供する(有)ビッグイシュー日本が、コロナ禍での新たな仕事づくりの一つとして、20年10月から開始した新規事業です。その日に売れ残ってしまいそうな商品をパン屋さんから買い取って販売をする、という取り組みで、昨年1年間で約6万6500個を販売。少ないながらも定期収入を得て、2人のスタッフがホームレス状態から脱することができました。販売場所も神楽坂かもめブックス軒先の1号店から、飯田橋第一パークファミリア駐車場での2号店、そして田町駅前・新田町ビル3号店と、週3回だったところから週6回開店にまで展開しています。このプロジェクトのリーダーを、ビッグイシュー基金共同代表で料理研究家の枝元なほみが担っています。



雑誌販売の仕事とダブルワークで働く人も



店頭に置かれた「夜のパン屋さん」ロゴ入りチラシ

貧困問題の状況を大きく変えてきたのは、市民の力です。ビッグイシュー基金のプログラムを、さらに社会に開くことを目指した今期も、事務所に届く支援物資やボランティア参加、そして7000人に迫る過去最多の市民応援会員・寄付参加者に支えられて活動することができました。

## 1. 参加のチャンスをつくる——ボランティア参加プログラム

ホームレス問題や貧困の問題、具体的なボランティア活動について知ってもらうため、「ボランティア説明会」を毎月1回、オンラインで開き、107人の参加がありました。今期は大阪で19人、東京で64人がボランティアに登録し、登録者数は累計1363人となりました。また、札幌、仙台、立川、横浜、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地のサポーターは65人でした。新型コロナの影響で、広くボランティアを募ることが難しい状況でしたが、クラブ活動や月2回の会報誌の発送作業、ヘアカットやコーチング、健康相談会など、各プログラムで感染対策や人数制限、オンライン開催など工夫をしながら活動の場をつくりました。

※「ボランティア説明会」に参加ご希望の方は、基金HPのイベント一覧からお申し込みください。

## 2. 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付——寄付参加プログラム

市民応援会員と寄付参加者は合計のべ6960人、会費、寄付をあわせた合計金額は8369万円となりました。前14期との比較では、寄付参加者のべ人数は1014人増え、寄付金額では1222万円増加しました。昨年に続いて過去最多の寄付額となりました。これは、コロナ禍での活動に引き続きの応援をいただいたこと、さらに年度末に企業からの寄付先として複数団体のうちの1つに基金が選定され、1500万円の高額寄付を受け入れたためです。市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付といった、目的や用途を限定される補助金などとは違う、縛られない資金に支えられて、コロナ禍においても活動を継続し、緊急対応のための新たな事業にも挑戦できました。改めて寄付参加いただいたみなさんに、心からの感謝とお礼を申し上げます。

また、11月に大阪府へ認定更新の申請をし、3月1日に無事、更新することができました。認定の有効期間は2027年3月26日までとなり、引き続き基金への寄付は税制優遇を受けていただけます。2021年度分の寄付金控除のための領収書は、1929人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額合計は約1822万円となりました（22年1月下旬送付）。

### ■ 会員・寄付者の内訳

#### (市民応援会員)

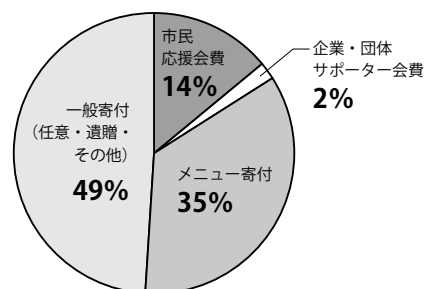
にっこり(394人) / ひとり立ち(110人) 計504人(会費金額1141万円) / 企業・団体サポーター計3件(会費金額計175万円) → 個人、団体合計1316万円

#### (メニュー寄付への参加)

出会い(728人) / つながりウォーク(677人) / 実践応援ラン(166人) / 社会包摂マラソン(141人) / 市民信頼社会(86人) 計1798人(メニュー寄付金額計2938万円)

#### (任意寄付)

任意寄付は4220人、遺贈寄付は3人、その他寄付(チャリボン等)は432人、計4655人(任意、遺贈、その他の寄付金額計4115万円)



第15期 会費・寄付収入の内訳

## ■ 物品寄付

基金HP、Facebook や Twitter などの SNS を活用して寄付募集をしました。前期から引き続き、Amazon「みんなで応援」プログラムの「ほしい物リスト」を通じて、食料品や熱中症対策グッズなどの支援物資の寄付も呼びかけました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から、食料品や衣料品、生活用品や衛生用品などを寄贈いただき、今期は 593 件（大阪 225 件、東京 368 件）の物品寄付がありました。これらは、夜回りなどで出会う人や、事務所を訪れる相談者にお渡ししました。

## ■ 古本でホームレスの人を中心に生活困窮者の自立を応援——チャリボン

書籍やDVDなどを（株）バリューブックスに送ることで、買い取り相当額分をNPOに寄付できる仕組みの「チャリボン」を通じて、2013年4月から2022年8月末までの間に4445人から953万6443円分のご寄付がありました。詳細は、チャリボンHP (<https://www.charibon.jp/>) をご覧ください。

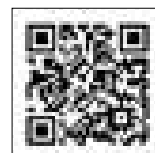
## 3. 広報・メディア掲載

### ■ 広報

広報では、基金だよりや基金通信「希望前線」（ビッグイシュー誌掲載）を各24回発行。また、基金のホームページやFacebook、TwitterなどのSNSでの発信に加え、YouTube「ビッグイシューチャンネル」の企画・運営協力、「Google 広告」なども活用しました。マスメディアでも、『路上脱出・生活SOSガイド』や、支援団体と共同して開いた相談会の活動などが取り上げられました。

### ● 「ビッグイシューチャンネル」で企画・運営協力した主な動画

- ・「あらためて語る ホームレス問題」（21年09月11日）
- ・「ホームレスがなぜ踊るのか～ソケリッサと考える文化・芸術～」(21年11月3日)
- ・「コロナ禍と貧困、炊き出し現場のいま」（22年1月30日）
- ・「国際NGOが取り組む、日本の住まいの問題」（22年3月25日）
- ・「コロナ禍と貧困 困窮する外国人の支援現場から」（22年7月16日）



ビッグイシューチャンネルについては、<https://www.youtube.com/c/THEBIGISSUEJAPAN> にアクセス、または右記QRコードよりアクセスください。

### ■ メディア掲載

（新聞、雑誌、機関紙、WEBメディア、ラジオなど）

朝日新聞デジタル／大阪ボランティア協会会員誌「CANVAS NEWS」／河北新報／共同通信／キリスト新聞／暮らしの手帖／greenz.jp／コトノネ／佐賀新聞／時事通信／しんぶん赤旗／東京新聞／毎日新聞／マガジンハウス〈こここ〉／横須賀経済新聞／ヨコハマ経済新聞／読売新聞オンライン／論座／AERA／AERA dot.／Yahoo! ニュース Voice／TBS ラジオ

◇上記メディアに取りあげられた内容

基金の活動／コロナ禍の活動／路上脱出・生活SOSガイド／年越し大人食堂／都への要望書の提出／野武士ジャパン／新人Hソケリッサ！／夜のパン屋さんなど

## 【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団／東京アンブレラ基金（一般社団法人つくり東京ファンド）  
／一般財団法人浪速友愛会

## 【企業・団体寄付】

医療法人協生会玉川診療所／宗教法人カトリック・ノートルダム教育修道女会／Tottori カルマ 丸山伊太郎／企業組合ワーカーズ・コレクティブ企画編集・のもの／八王子市つるた勝巳税理士事務所／ビッグイシュー名古屋ネット／宗教法人日本聖公会 神田キリスト教会／日本ライフレイ 株式会社／めぐみ指圧治療室／税理士法人さくら／日本キリスト教団 行人坂教会／NPO 法人さわやか三田／大阪希望教会 金知根／株式会社リクルート／ES Global Japan 株式会社／ティグレ連合会／仏教を初歩英語で学び実践するサンガの会／株式会社イー・エヌ・アイ／KDDI 株式会社／一般社団法人 東京アメリカンクラブ

## 【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、<https://giveone.net/>）  
株式会社バリューボックス（チャリボン、<https://www.charibon.jp/>）

## 【物資の寄付】

UBS グループ（食品、衣料、日用品など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社（食品）／株式会社ピクニック（衣料）／損保ジャパン株式会社京滋自動車営業部（食品、日用品、衛生用品）／あべの会計事務所（衣料、衛生用品）／一般社団法人まがたま（日用品）／特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会（食品）／エル美容室（衣料、食品）／一般社団法人東京アメリカンクラブ（食品、衛生用品）／日本基督教団大宮教会（食品）／一八亭（食品）／一般社団法人ギビングフォワード（食品、日用品）／こども防災協会（食品）／日興アセットマネジメント株式会社（食品）／株式会社 StockBase（食品、日用品）／社会福祉法人豊田市社会福祉協議会（テレホンカード、金券）／PREG 株式会社（衣料）／ピープルツリー フェアトレードカンパニー株式会社（食品）／株式会社ネオキャリア（食品）／パナソニック ホールディングス株式会社（衛生用品）／生活協同組合コープこうべ（食品）／カラオケ喫茶 いおり（衣料）／カフェ モルゲン・グロッケ（衣料）／株式会社 IDAJ（衛生用品）

## 【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人仙台夜まわりグループ／NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／真宗大谷派聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

## 【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム／Dropbox, Inc.／Slack

# 社会を変えるのはあなたの寄付です — 会員・寄付の制度について

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます（返金の上限額は納付所得税の25%まで）。公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝NPO」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。市民の寄付で社会を変える活動に、あなたも参加しませんか。

## メニュー寄付

税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます(確定申告が必要)。



**出会い寄付**  
5,000円 / 1口 (返金額は1,200円)



**社会包摂マラソン寄付**  
50,000円 / 1口 (返金額は19,200円)



**つながりウォーク寄付**  
10,000円 / 1口 (返金額は3,200円)



**市民信頼社会寄付**  
100,000円 / 1口 (返金額は39,200円)



**実践応援ラン寄付**  
20,000円 / 1口 (返金額は7,200円)

- **任意額寄付** 事務手続き上1,000円からの受付となります。
- **マンスリー寄付** 月額1,000円×1口～。(HPから受け付けています)
- **法人寄付** 損金算入限度額の枠が拡大されます。

\* 雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニューズレター、年次報告書(年1回)をお送りします。

## 遺贈・相続財産の寄付

寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定NPOになって10年で、22人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています(2022年8月末現在)。

\* 遺贈、相続財産の寄付をお考えの時には、お気軽に電話(06-6345-1517)・Eメール(info@bigissue.or.jp)でご連絡ください。当基金の顧問弁護士へのご相談(無料)も可能です。

## 市民応援会員

特典があります(税制優遇はありません)。



**にっこり応援会員**  
年会費：15,000円(誌代相当分を含む)  
【特典】『ビッグイシュー日本版』を1年分24回  
毎号送付&雑誌の「基金通信」最新号にお名前を  
掲載、年次報告書の送付(年1回)ほか



**ひとり立ち応援会員**  
年会費：50,000円(誌代相当分を含む)  
【特典】『ビッグイシュー日本版』を1年分24回  
毎号送付&雑誌の「基金通信」に1年間お名前を  
掲載、年次報告書の送付(年1回)、パーティに  
ペアでご招待(年1回)ほか

## 企業・団体「社会再生サポーター」

特典があります(税制優遇はありません)。

- **キャリア再形成・サポーター会員** 年会費：250,000円
- **社会復帰・サポーター会員** 年会費：500,000円
- **社会再生・サポーター会員** 年会費：1,000,000円

\* 『ビッグイシュー日本版』1冊を1年分24回送付、雑誌に1年間お名前掲載などの特典があります(年会費に誌代相当分を含みます)。

<郵便振替での振込み> 口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金  
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先(お名前、郵便番号、ご住所、電話番号)を明記ください。

<銀行振込み・クレジットカード>

ビッグイシュー基金のホームページ(<https://bigissue.or.jp/>)からご利用いただけます。

\* 個人の方のご寄付の領収書は1月～12月入金分をまとめて翌年1月下旬頃に発行・送付させていただきます。  
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の4割弱が返金されます)



# 決算報告

第15期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は8592万円となりました。これは、2020年からのコロナ禍での基金の活動に対して、みなさんからの継続したご支援をいただき、さらに、年度末に企業から1500万円の高額寄付を受け入れたためです。この結果、今期の正味財産増減額は2904万円となり、前14期の繰越金8056万円をあわせ、1億961万円の剰余金を計上しました。この剰余金は、生活保護などの公的支援を受けにくい方の住まいの確保と維持を応援する「おうちプロジェクト2（仮称）」や、大阪オフィスの移転と市民交流サロン創設などの事業にも活用します。

【活動計算書 2021年9月1日から2022年8月31日まで】

科目	金額 (単位: 円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	140,000	
賛助会員受取会費	13,160,000	13,300,000
2. 受取寄付金	70,534,689	70,534,689
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,711,365	1,711,365
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	329,015	329,015
5. その他収益		
受取利息	627	
雑収益	41,570	42,197
経常収益計		85,917,266
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	10,389,613	
臨時雇賃金	7,006,151	
法定福利費	2,598,598	
通勤費	997,324	20,991,686
その他経費		
業務委託費	878,674	
諸謝金	70,000	
印刷製本費	592,721	
会議費	423,447	
旅費交通費	579,055	
通信運搬費	3,213,113	
消耗品費	3,381,530	
家賃 (光熱費含)	3,391,089	
賃借料	5,856,071	
保険料	18,880	
諸会費	53,000	
租税公課	7,700	
研修費	16,400	
広報費	3,110,400	
会報費	4,497,840	
寄付金	170,000	
支払手数料	1,121,529	
雑費	941,524	28,322,973
事業費計		49,314,659
2. 管理費		
人件費		
役員報酬	1,800,000	
給料手当	960,344	
法定福利費	123,872	
通勤費	56,548	
福利厚生費	96,769	3,037,533
その他経費		
印刷製本費	148,144	
会議費	2,883	
旅費交通費	1,880	
通信運搬費	527,067	
消耗品費	466,963	
家賃 (光熱費含)	216,452	
賃借料	175,560	
諸会費	39,600	
租税公課	3,700	
支払手数料	1,061,949	
支払利息	20,671	2,664,869
管理費計		5,702,402
経常費用計		55,017,061
当期経常増減額		30,900,205
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1. 過年度寄付金返還	1,715,570	
経常外費用計		1,715,570
税引前当期正味財産増減額		29,184,635
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		29,044,635
前期正味財産額		80,564,535
次期正味財産額		109,609,170

【貸借対照表 2022年8月31日現在】

科目	金額 (単位: 円)	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	113,122,500	
未収金	455,000	113,577,500
2. 固定資産		
敷金	53,000	53,000
資産合計		113,630,500
II 負債の部		
1. 流動負債		
仮受金	953,062	
未払金	1,530,199	
長期借入金 (1年内返済予定)	609,000	
預り金	90,969	
当事者預り金	838,100	4,021,330
2. 固定負債		0
負債合計		4,021,330
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		80,564,535
当期正味財産増減額		29,044,635
正味財産合計		109,609,170
負債及び正味財産合計		113,630,500

【財産目録 2022年8月31日現在】

科目・摘要	金額 (単位: 円)	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
手元現金	999,180	
普通預金 (三菱UFJ銀行堂島支店)	87,614,028	
普通預金 (三菱UFJ銀行新宿支店)	500,000	
郵便振替	18,524,872	
普通預金 (ゆうちょ銀行)	2,156,540	
普通預金 (三井住友銀行)	1,047,491	
普通預金 (みずほ銀行)	132,880	
普通預金 (楽天銀行)	2,147,509	
未収金		
賛助会員受取会費未収金 (カード利用)	455,000	113,577,500
2. 固定資産		
敷金 (東京シェルター)	53,000	53,000
資産合計		113,630,500
II 負債の部		
1. 流動負債		
仮受金 (南ビッグイシュー日本)	953,062	
未払金 (石原不動産、タワーマンション他)	1,530,199	
長期借入金 (1年内返済予定) (日本政策金融公庫)	609,000	
預り金 (源泉所得税)	90,969	
当事者預り金 (生活自立積立金)	838,100	4,021,330
2. 固定負債		0
負債合計		4,021,330
正味財産		109,609,170



## 【計算書類の注記】

### 1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

- (1) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。
- (2) 事業費管理費共通経費の按分  
共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

### 2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者 や市民の参加応 援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化 活動応援	若者応援 ネットワーク	住宅政策提案	ギャンブル 依存症問題		
人件費								
給料手当	6,741,750	354,030	414,820	717,981	730,131	717,981	712,920	10,389,613
臨時雇賃金	6,100,743	98,140	353,128	0	0	0	454,140	7,006,151
法定福利費	1,873,425	80,035	133,477	127,956	130,134	127,956	125,615	2,598,598
通勤費	708,779	25,804	37,613	46,920	47,598	46,920	83,690	997,324
人件費計	15,424,677	558,009	939,038	892,857	907,863	892,857	1,376,365	20,991,686
その他経費								
業務委託費	278,674	0	0	600,000	0	0	0	878,674
諸謝金	25,000	45,000	0	0	0	0	0	70,000
印刷製本費	568,041	0	0	0	0	0	24,680	592,721
会議費	285,536	4,966	130,541	0	1,324	0	1,080	423,447
旅費交通費	467,462	15,070	80,446	0	16,077	0	0	579,055
通信運搬費	121,122	0	0	0	0	0	3,091,991	3,213,113
消耗品費	1,277,703	7,925	1,949	0	1,604,596	0	489,357	3,381,530
家賃(光熱費含)	2,092,374	144,302	180,377	180,377	180,377	180,377	432,905	3,391,089
賃借料	5,524,974	0	96,350	0	232,647	2,100	0	5,856,071
保険料	18,880	0	0	0	0	0	0	18,880
諸会費	43,000	0	0	0	0	0	10,000	53,000
租税公課	7,250	0	0	0	450	0	0	7,700
研修費	10,230	0	0	2,970	0	0	3,200	16,400
広報費	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	4,497,840	4,497,840
寄付金	170,000	0	0	0	0	0	0	170,000
支払手数料	91,514	220	0	0	0	0	1,029,795	1,121,529
雑費	936,524	5,000	0	0	0	0	0	941,524
その他経費計	11,918,284	222,483	489,663	783,347	2,035,471	182,477	12,691,248	28,322,973
事業費計	27,342,981	780,492	1,428,701	1,676,204	2,943,334	1,075,334	14,067,613	49,314,659

### 3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	888,100	△ 50,000	838,100
合計	888,100	△ 50,000	838,100

### 4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に 計上された金額	内役員及び 近親者との取引
家賃(光熱費含)	3,607,541	3,607,541
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	4,497,840	4,497,840

### 5、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	1,653,000	0	1,044,000	609,000
合計	1,653,000	0	1,044,000	609,000



# 誰もが生きやすい“包摂”社会をつくる

——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に2007年9月に設立した、ホームレス状態の人々の自立を応援する非営利団体です。2012年7月1日に認定NPO法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は、①ホームレス状態の人・生活困窮者の自活・自立応援、②貧困問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、という3つの柱の活動を通じて、貧困と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題を軸に、貧困問題の解決に取り組みます。そしてこれらの活動に、市民、ホームレス状態の人、困窮する当事者の参加を得ながら、「誰もが生きやすい包摂社会」の形成をめざします。

## 当事者と市民がつくる「くらしと活動の場」——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、問題の当事者が選び、参加できる「場と機会」を提供し、当事者主体の自立・自活を応援する、という考え方をもっています。こうした「自助型の応援」を基本に多くのNPO、企業や行政とも協力し、ホームレス状態の人々、生活に困窮する人々の自立・自活を応援しています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民と当事者がプレイヤーとなって社会問題の解決を担うことのできる「くらしと活動の場」でありたいと考えています。

団体概要	
□ 名称	認定NPO法人 ビッグイシュー基金
□ 設立	2007年9月設立、08年4月NPO法人の認証、12年7月国税庁、17年3月大阪府認定NPO法人格取得、22年3月認定更新
□ 所在地	[大阪事務所] 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階 Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358 [東京事務所] 〒162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC 江戸川橋ビル2階 Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074 E-mail: info@bigissue.or.jp URL: https://bigissue.or.jp/
□ 役員	共同代表 米本 昌平（東京大学客員教授） 稲葉 剛（立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事） 枝元 なほみ（料理研究家） 理事 高野 太一（ビッグイシュー基金事務局長） 蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ / 世界経済フォーラム / ヤング・グローバル・リーダー2015） 水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長） 監事 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士） 相談役 雨宮 処凛（作家）
□ スタッフ	高野 太一 栗原 奈津子 野村 拓馬 栗原 侑子 佐野 ハナ 西郷 和将 川上 翔 小野 阿津美 横谷 明子 宮崎 泰代 梅澤 昌子 山田 昌宏 木津 英昭 平山 将 中尾 聖河

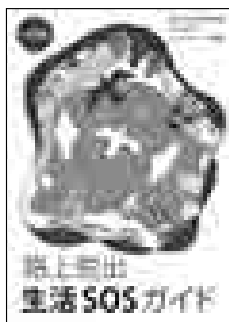
## （※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。質の高い雑誌をつくり、路上でのホームレス状態や貧困状態の人の独占販売事業とし、その売上の50%以上を収入にしてもらうという仕組みをもっています。03年9月から22年8月までの19年間で2019人が販売者に登録し、205人が仕事を心得て自立しました。また、累計952万冊を販売、15億1204万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。

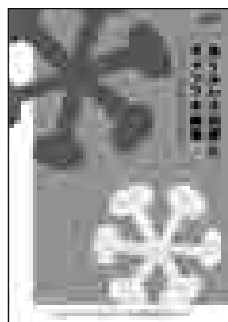
# これまでの発行物一覧



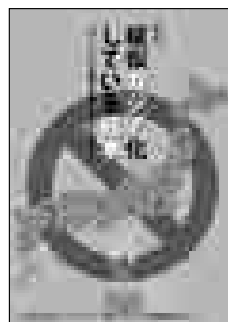
『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編  
2021年11月(A5/56p)



『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編  
2022年8月(A5/44p)



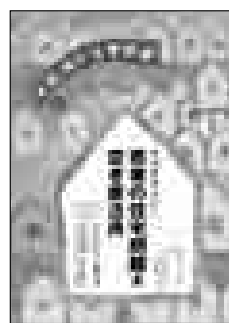
『ホームレス状態とギャンブル障害』  
2019年12月(A4/12p)



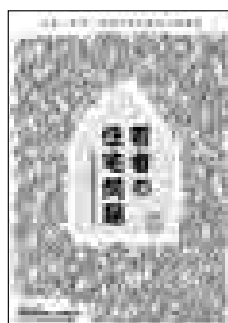
『新版 疑似カジノ化している日本』  
2018年10月(A4/36p)



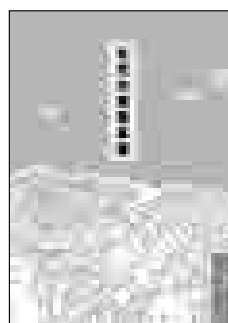
『ギャンブル依存症からの生還』  
2016年8月(A4/88p)



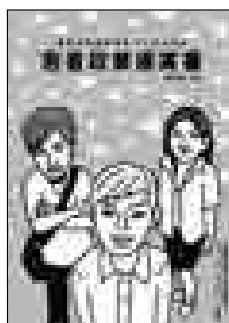
『若者の住宅問題 & 空き家活用』  
2015年10月(A4/24p)



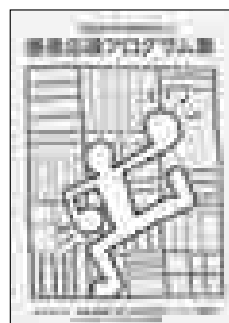
『若者の住宅問題-住宅政策提案書[調査編]』※絶版  
2014年12月(A4/40p)



『住宅政策提案書』※絶版  
2013年10月(A4/24p)



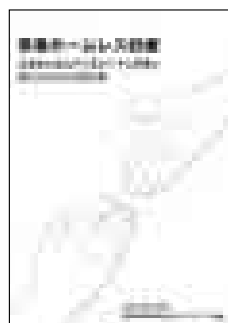
『若者政策提案書』  
2015年2月(A4/32p)



『若者応援プログラム集』※絶版  
2014年3月(A4/116p)



『若者ホームレス白書②』※絶版  
2012年3月(B5/32p)



『若者ホームレス白書』※絶版  
2010年12月(B5/32p)



『シビックエコノミーの可能性』  
2016年12月(A4/32p)



『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』  
2019年3月(A4/32p)



『社会(スポーツ)をあそぶガイドブック—サッカーが作る居心地の良い社会』  
2018年3月(A4/56p)



『第2回ダイバーシティカップ報告書』  
2016年11月(A4/56p)

※上記資料は、無料で配布中です。お名前・ご住所・冊数などをHPの入力フォーム、またはFAXでお知らせください。(着払い送料のみご負担をお願いします)



2022年11月15日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階

TEL: 06-6345-1517 FAX: 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC江戸川橋ビル2階

TEL: 03-6380-5088 FAX: 03-6802-6074

E-mail: [info@bigissue.or.jp](mailto:info@bigissue.or.jp) URL: <https://bigissue.or.jp/>

デザイン: 新デ制作室

